

令和 6 年度事業報告  
令和 6 年 10 月 1 日～令和 7 年 9 月 30 日

I. 全体事業報告

1. 事業方針

1) テクノロジー委員会

ナノテクノロジーに関連する技術シーズ・応用・製品・計測評価に関する情報収集と共有、データベースの整備と利活用、横串連携を通じて、ナノテクの実用化を促進する。

- ①会員企業間、及び会員企業と公的研究機関・大学の連携促進活動
- ②ナノテクの情報収集・分析・発信活動
- ③府省の取組みや動向に関する情報収集と会員への展開活動

2) 社会受容・標準化委員会

ナノ材料の社会受容性向上、ナノテクの国際標準化を推進する。

- ①ナノ材料の社会受容性向上による産業化促進
  - (1) CNT を主にナノカーボンを対象とした活動
  - (2) ナノ材料及びその使用製品を対象とした活動
  - (3) 情報のデータベース化及び会員への情報発信
  - (4) ナノ安全に関連するネットワークの拡大・深化
  - (5) ナノ材料等の認証・登録の模索的検討
- ②ナノテクの国際標準化の推進による市場、流通環境の整備
  - (1) ISO/TC229 標準化活動
  - (2) OECD/WPMN 標準化活動

3) ビジネス委員会

ビジネスのベースとなるパーソナルネットワークを構築し、双方向のコミュニケーション・交流、オープンイノベーション、社会課題解決に繋がるシーズ・ニーズマッチング、ビジネスマッチングを促進する。

- ①オープンイノベーション活動の促進
- ②ナノカーボン実用化の促進と共創の場の提供

4) イノベーション推進委員会

会員メンバーの社会課題解決に対する感度向上を図り、イノベーションを推進する。

- ①関係府省や研究開発機関からの政策や技術動向紹介と意見交換の企画
- ②ナノテクに関する府省、関連団体の動向調査

5) 政策提言タスクフォース

「第 7 期科学技術・イノベーション基本計画」に向けて、NBCI からの政策提言を令和 6 年 10 月を目標に提出する。

提出後のフォローとして、内閣府での「第7期科学技術・イノベーション基本計画」の策定に関連する、各府省、関連団体の動向調査を行う。

6) ネットワーキングタスクフォース

社会課題解決に貢献するナノテクノロジー業界団体として、ビジネスネットワークの拡大を図る。

- ①国際ナノテクノロジー総合展・技術会議（ナノテク展）を活用したビジネスネットワークとNBCIプレゼンスの向上
- ②国際ナノテク団体との連携の推進

7) 会員サービス向上・新規会員勧誘

会員ニーズの把握とそれに合致したサービスの向上に努め、NBCIのプレゼンス向上を図るとともに新規会員の参画を促す。

- ①情報発信・個別対話・会員活動支援
- ②対外発表・広報活動・新規会員勧誘

## 2. 事業実績の概要

1) テクノロジー委員会

テクノロジー委員会では、ナノテクノロジーの社会実装を促進するために、会員企業間、及び会員企業と国・公的研究機関間の連携や、ナノテクノロジーに関する先端技術シーズ、応用、製品に関するの情報収集、データベースの整理、発信と利活用を含む活動を進めた。

公的研究機関との新たな連携として、産総研 材料基盤研究部門との技術交流会を令和6年度から新たに開始した。また、マテリアル先端リサーチインフラ (ARIM) との技術交流会は2回開催した。

委員会・分科会等の会合、講演会やセミナーを年間44回実施した。交流とネットワーク形成を促進するため、NBCI 御茶ノ水事務所での対面イベントを増やし、会員企業のオープンイノベーション拠点も活用した。さらに、オンライン併用のハイブリッド形式で、より多くの会員が参加しやすいように開催した。

委員会や分科会の活動目的・ゴール、成果トピックスや問題意識を共有する目的で、テクノロジー委員会活動報告会を、テクノロジー委員会以外も含めて全委員会の報告に幅を広げて、賛助会員も含めた全会員を対象に実施した。テクノロジー委員会以外の幅広い会員が参加し、参加者アンケートの結果、【全体の満足度】85%、【有用性】85%（報告会で得た情報・議論の貴社業務・NBCI活動に対して）であり、分科会参加のマインド向上に繋がる結果であった。

『ナノテクの見える化』2025年版の活動では、会員企業39社から69件の製品技術情報を提供頂き、冊子媒体として整えて nano tech 2025 開催時に560部を配布し、ナノテクノロジーの社会的貢献に関する理解を広めた。

## 2) 社会受容・標準化委員会

社会受容・標準化委員会では、令和 6 年度は「ナノ材料の社会受容性向上」と「国際標準化の推進」を二本柱に活動した。

### ①ナノ材料の安全確保と情報発信

主に CNT（カーボンナノチューブ）を対象に活動した。具体的には、FAQ 冊子の改訂・販売（累計約 1,000 部）や「ナノナビ」の発行で、ナノ材料に関する情報提供を強化した。また、EU の CNT 規制動向に対応し、関係省庁と連携して意見を発信した。CNT 等の発がん性評価法の国際標準化（ISO/TC229）を支援し、労働現場でのリスク評価手法である「コントロールバンディング」の翻訳 JIS 化（TS Z 8932:2024）を達成した。

### ②国際標準化を通じた市場環境の整備

ISO/TC229 におけるナノ材料の安全性評価や SDS（安全データシート）に関する規格改定に貢献した。ISO 国内審議委員会や OECD/WPMN 活動への委員派遣を通じて、産業界の意見を反映させ、市場・流通環境の整備を推進した。

なお、フラーレン分科会は登録会員数が年々減少し、直近では 2 社に限定されており、その内 1 社がもう他方の会社の子会社であったため、活動には至らず今回分科会を解消すると決定したもの（9 月企画運営推進会議で承認）。

## 3) ビジネス委員会

ビジネス委員会のオープンイノベーション WG では、多様な会員の交流とマッチング促進に注力し、活動した。具体的には、「会員企業からの事業紹介」や「大学発シーズ紹介」（大阪大学など）などの活動を継続し、ベンチャー企業等との連携促進イベントとして「NBCI Start-up Award」を企画、提案、推進した。宇宙ビジネスや Deep tech に関する新たな活動も模索した。

また、大学発シーズをきっかけに発足した「計測インフォマティクスゼミ」は、会員企業の具体的な技術課題解決を目指した実践的な勉強会として、継続して開催し、令和 6 年度も第 2 期公開ゼミを 2 回開催した。

ナノカーボン実用化 WG は、非会員も対象とした社会実装とネットワーク創りを推進し、全体会合を 2 回開催し、特別講演、企業交流講演を実施した。さらに、共催で「ナノカーボン未来技術講演会」をリアル開催し、「持続可能な未来を実現する低炭素化技術とナノカーボン材料の実用化への取り組み」をテーマに議論を深めた。

「nano tech 2025」では、「ナノカーボンオープンソリューションフェア」を共催し、好評の「ナノカーボン業界マップ」を 2025 年版に更新して配布した。

## 4) イノベーション推進委員会

イノベーション推進委員会では、令和 8 年（2026 年）から始まる「第 7 期科学技術・イノベーション基本計画」に向けて、政策提言タスクフォースを運営、提言をまとめ、令和 6 年 10 月に内閣府へ提出した（その写しを文部科学省、経済産業省にも提出済み）。

5) 政策提言タスクフォース

「NBCI 政策提言書を策定し、令和 6 年 11 月 1 日に内閣府に提出（経済産業省、文部科学省に写しを提出）するとともに、各府省と意見交換を行った。

6) ネットワーキングタスクフォース

nano tech 2025 においても、NBCI として単独ブース展示を行い、展示内容として、「ナノテクの見える化」、「NBCI 活動紹介」、「企業事例展示」を実施し、企業事例展示では、杉田電線、関東電化工業、三菱鉛筆の 3 社が出展された。

第 6 回目となるナノカーボンオープンソリューションフェアを NBCI と JTB コミュニケーションデザインの共催で開催した（出展企業 15 社）。

7) 会員サービス向上・新規会員勧誘

①情報発信・個別対話・会員活動支援

NBCI の活動トピックス、ナノ材料の安全・規制動向、政府政策関連情報などを会員にタイムリーに発信した。会員への理解促進、ニーズ把握、コミュニケーション促進のため、個別対話を積極的に実施し、ネットワーキング効果を高めるために「会員からの事業紹介」を推進した。「ナノテクの見える化」等の価値あるコンテンツを含むナノテク関連データベースを会員と協力して更新・拡充・公開した。

②対外発表・広報活動・新規会員勧誘

講演会開催や「nano tech 2025」での展示を通じ、NBCI 活動の価値を発信した。特に、欧州ナノ規制に対し、科学的エビデンスに基づいた意見発信を継続し（国際会議でのポスター展示等）、セーフ・イノベーションを促進した。また、「ナノテクの見える化」活動の普及のため、大阪大学の特別集中講義への講師派遣を継続実施した。これらの広報活動と並行し、展示会来訪者等へ積極的にアプローチした結果、15 社の新規会員勧誘に成功した。

③会費改定について

NBCI では、令和 8 年度より会費を改定するため、本年 5 月の中間理事会への附議を経て、11 月 18 日開催予定の定期総会にて決議を行う予定。

改定は、正会員（一般会員）に限定し、年額 10 万円から 15 万円へ改定する。主な改定理由は、以下の活動費用増加に対応するため。

- ・物価高騰による総会・ナノテク展等の費用増加。
- ・分科会活動の活発化に伴う運営経費の増加。
- ・欧州 CNT 規制対応のための、海外ナノテク団体との連携強化に必要な海外出張費等の予算確保。
- ・事務所の資産保守・新規設備投資など、健全な財務環境を構築。

④ホームページリニューアル

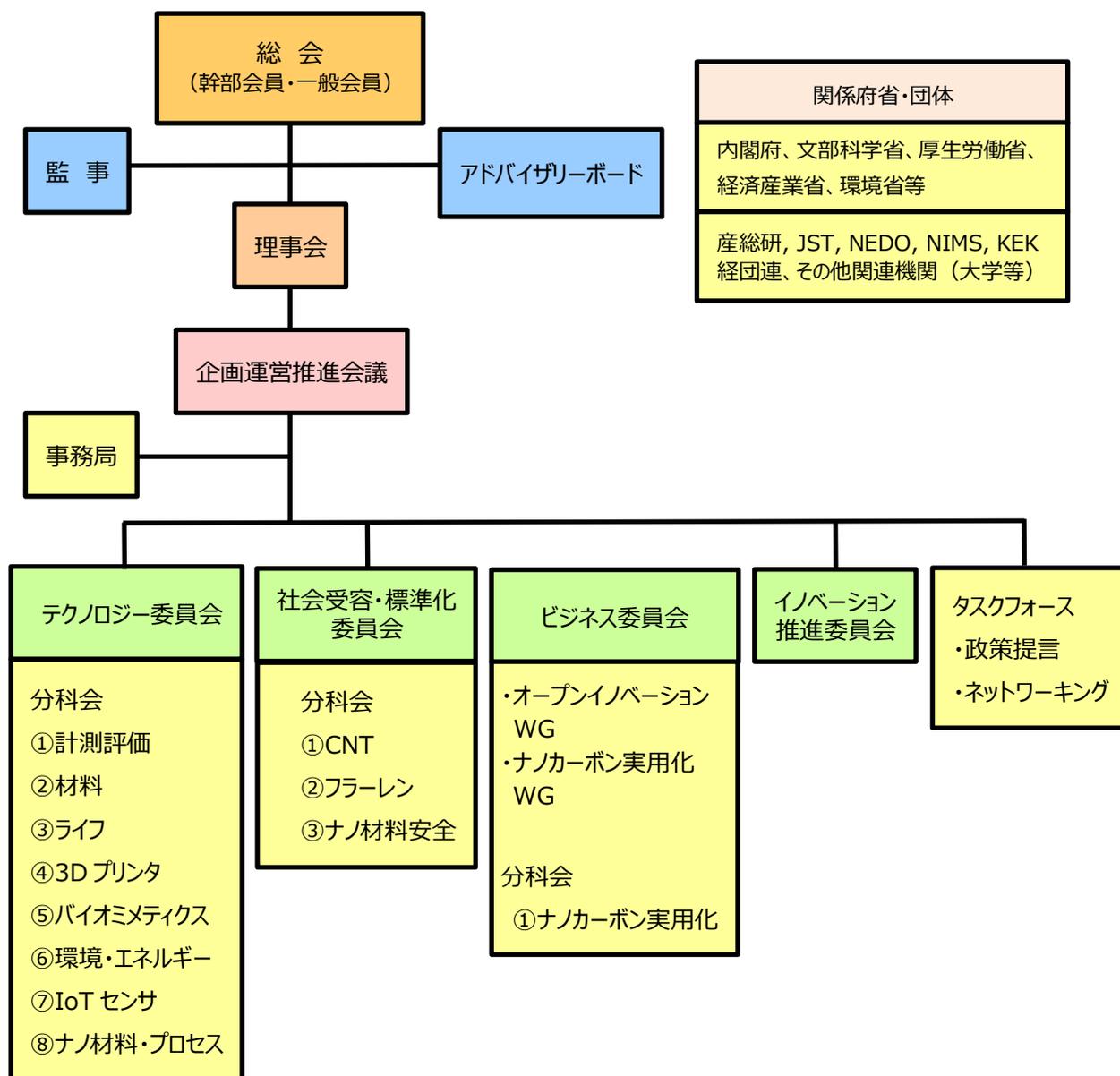
現行ホームページは、国際標準外の文字エンコーディングや、管理画面と会員情報管理の統合によるセキュリティリスク、そして視認性の低さといった課題を抱えており、これらの課題解消とプレゼンス向上のため、令和 7 年 5 月に

ベンダーを選定し、同年7月より新ホームページの製作を開始した。令和8年2月頃のリリースを予定している。

新ホームページは、コンテンツの整理による視認性の向上、携帯・タブレット端末への対応、そして会員情報とホームページ管理の分離によるセキュリティ強化をコンセプトとし、会員および新規入会者にとってより魅力的で完成度の高いものとすることを目指す。

## II. 一般事業

### 1. 体制図



産総研：国立研究開発法人 産業技術総合研究所

JST：国立研究開発法人 科学技術振興機構

NEDO：国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

NIMS：国立研究開発法人 物質・材料研究機構

KEK：大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構

## 2. テクノロジー委員会

### 1) 事業方針

テクノロジー委員会は、ナノテクノロジーの実用化を促進するために、会員企業間、及び会員企業と国・公的研究機関間の仲介や、ナノテクノロジーに関する技術シーズ、応用、製品に関しての情報収集・発信を行った。このため委員会の事業方針を下記のとおり設定し、活動を進める。

- ①会員企業間、及び会員企業と公的研究機関・大学との連携促進活動
- ②ナノテクの情報収集・分析・発信活動
- ③府省の取組みや動向に関する情報収集と会員への展開活動

### 2) 事業実績

令和 6 年度は、分科会活動の情報共有と横串連携を目的とする活動報告会を継続開催した。また、産総研、NIMS などの公的研究機関との新たな連携のあり方についての議論を継続している。主に分科会活動を通して、会員企業間の連携の基礎となる、参加メンバー同士の企業・業種を超えての幅広いパーソナルネットワーク作りを支援している。

#### ①会員企業間、及び会員企業と公的研究機関、大学との連携促進活動

##### (1) NIMS 連携

- ・マテリアル先端リサーチインフラ (ARIM) との技術交流会 (材料分科会)  
NIMS がセンターハブの役割を担う、ARIM との技術交流会を継続的に開催した。第 3 回 NBCI-ARIM 技術交流会は、1 月 16 日に ARIM ハブ拠点 (ナノマテリアル化技術・次世代高分子マテリアル) の京都大学にて開催、第 4 回 NBCI-ARIM 技術交流会は、7 月 11 日に ARIM ハブ拠点 (次世代バイオマテリアル) の名古屋大学にて開催した。NBCI 会員企業に、ARIM の取り組みを知ってもらい、共用設備の活用、データ構造化、データベースとその利活用に関する情報を共有して、産業界でのマテリアルズ・インフォマティクス、データ駆動型研究開発の促進に貢献する活動を行っている。
- ・マテリアル戦略総合シンポジウム 2025 (MatISS 2025) 関連 (材料分科会)  
MatISS 2025 を協賛、及びマテリアル先端リサーチインフラ NIMS 担当領域セミナーの案内を通じ、最先端研究設備による成果事例と活用のノウハウを知る機会として会員企業に紹介した。

##### (2) 産総研連携

- ・産総研 材料・化学領域 ナノ材料研究部門 (NMRI) と技術交流会  
産総研のナノ材料の研究部門である NMRI との新たな技術交流会を開催した。NBCI 会員企業に、NMRI の取り組みや研究内容を知ってもらい、共同研究や社会実装の促進することを目指し、第 1 回として、12 月 5 日 (木) に NBCI の事務所のある東京 YWCA 会館カフマンホールにて開催した。

### (3) 大学連携

大阪大学のナノテクノロジー関連講座への社会人講師派遣を継続実施した（11月4日、18日）。これにより、大学における研究開発人材の育成・社会人教育という一面にとどまらず、ナノテクノロジーの社会的貢献、並びにNBCIの活動に関する理解を一般に広めていくことを目的としている。

## ②ナノテクの情報収集・分析・発信活動

### (1) 委員会・分科会活動

- ・材料分科会では、第3回NBCI-ARIM技術交流会を1月16日にARIMハブ拠点（ナノマテリアル化技術・次世代高分子マテリアル）の京都大学にて開催、第4回NBCI-ARIM技術交流会を7月11日にARIMハブ拠点（次世代バイオマテリアル）の名古屋大学にて開催。内容は、NBCIとARIM相互からの講演会に加え、各ARIMハブ拠点のラボツアーを実施。また、材料・素材関連の情報を得るべく講演会を企画・開催した。
  - ・ライフ分科会では、バイオテクノロジー、ライフサイエンス等に関連する最新技術動向や市場トピックスについて、情報共有、意見交換を行うとともに、関連するテーマの講演会を企画・開催した。
  - ・ナノ材料・プロセス分科会では、活動のアウトプットとして「ナノ材料・プロセス業界動向マップ」の作成を目指し、テーマを水素社会にターゲットを絞り、今まで開催した講演会などの情報を基に、技術ニーズ動向マップの取りまとめ方法を会合にて議論、検討した。
  - ・環境・エネルギー分科会では、カーボンニュートラル等の最近の話題に関連した大学・企業・団体による講演会と、会員企業を交えた意見交換を継続的に実施した。
  - ・計測評価分科会では、作成作業中である「ナノ計測評価FAQ」の一部である「使い分けFAQ応用事例リンク集」のドラフトがほぼ完成。会員企業からの掲載情報について掲載の了承を得る作業を進める。NBCIのホームページリニューアルのタイミングに合わせてリリースできるようにしたいと考えている。
- 「計測評価 Library」を開設した (<https://sites.google.com/view/nbcimeasurement>)。
- ・3Dプリンタ分科会では、分科会内でトピックスや展示会等の最新情報の共有を実施して、リアルな現場の情報共有を積極的に推進した。

第57回会合 令和6年12月3日

- ・メンバーへのアンケート集約&結果を踏まえた取り組み案の報告（寺主査）
- ・Formnext2024 報告（NTT データザムテクノロジーズ 毛利副主査）

第58回会合 令和7年3月27日

- ・メンバーへのアンケート集約&結果を踏まえた取り組み案の報告（寺主査）
- ・Formnext2024 報告（NTT データザムテクノロジーズ 毛利副主査）

第 59 回会合 令和 7 年 7 月 25 日

- ・ TCT Japan 2025 報告 (JTB コミュニケーションデザイン: 中村様、日比様)  
今年度は、有識者講演ではなく、メンバー発信の情報共有を中心にを行い、リアルな現場の情報共有を積極的に推進した。
- ・ メンバーへのアンケート結果より、以下の課題がわかった。
- ・ 嗜好を変えつつも、リアル/Web ともに出席率低  
⇒メンバー情報共有機会の損失
- ・ メンバーの繁忙感、本活動の優先順位低、不参加企業の固定化  
⇒参加意義の魅力付け、活性化が必要
- ・ IoT センサ分科会では、IoT センサの基盤技術から周辺技術、活用事例に至る様々な情報について、分科会メンバー企業・団体同士での相互共有を通じて、関連領域のコトづくりに繋げることを目標として、分科会メンバーの保有技術を実演形式にて技術紹介する『実演技術交流会』の継続と、『未来像を考えるワークショップ』を継続実施した。
- ・ 活動実績 (令和 6 年度主要トピックス)
- ・ 会合開催回数: 年 4 回
- ・ 主催イベント:
  - a) ワークショップ (センサが生きる未来像の創出)  
コトづくりを目指したワークショップ活動を「未来の工場」をテーマに毎回の会合で実施した。
  - b) 実演技術交流会 (同分科会登録企業・団体対象)  
会員間の双方向の直接的技術対話を目指し、従来の講演会に代わるイベントとして令和 5 年 6 月より開始し、令和 6 年度は以下を継続した。  
第 6 回実演技術交流会 (ユニカミノルタ会社概要、実演技術紹介)
    - ・ ユニカミノルタの概要説明
    - ・ センシング情報の可視化に向けた技術的挑戦への理解  
～人工知能によるセンシング世界の新たな幕開けへの挑戦～第 7 回実演技術交流会 (NEDO 実演装置説明、産総研実演装置説明)
    - ・ 社会課題の解決を支えるセンシング技術  
～持続可能な未来社会に向けたセンシングの役割～第 8 回実演技術交流会 (日本電子見学会と装置説明)
    - ・ 電子顕微鏡と分子構造解析装置の技術説明会
    - ・ 会社の 75 周年の歴史と主力製品の紹介
    - ・ 最新の分析・観察装置のデモンストレーション
    - ・ 施設見学と装置実演の実施第 9 回実演技術交流会 (TPR 会社概要、実演技術紹介)
    - ・ TPR の概要説明
    - ・ 3 つの展示技術・製品紹介 (熱伝導クレイ、熱電発電モジュール、摩擦発電シート)

- ・バイオミメティクス分科会は、高分子学会バイオミメティクス研究会、NPO 法人バイオミメティクス推進協議会を始めとする関連団体との連携を活かしながら、アカデミアから講師を招聘した講演会開催や、関連学会の報告、専門家からの最新研究紹介、ISO 標準化情報のアップデートにより情報を共有した。また、メンバー企業からの話題提供も継続して実施した。

(2) テクノロジー委員会本体による情報収集・分析・発信活動

- ・会員企業の協力により「ナノテクの見える化」2025年版の活動として、会員企業 39 社から 69 件の製品技術情報を提供いただき冊子媒体として整えて nano tech 2025 開催時に 560 部を配布し、ナノテクノロジーの社会的貢献に関する理解を広めた。

更に NBCI ホームページへの掲載を実施した。

- ・委員会・分科会にてまとめた情報を会員に展開すべく、一部情報に関してホームページを活用して会員外にも閲覧いただいた。

(3) 府省の取組みや動向に関する情報を収集し、会員に展開

会員が入手したい政策や動向に関する情報を委員会内でヒアリングするとともに、NBCI がコンタクト可能な機関情報を纏めながら要望のあった情報を収集し、会員企業へ紹介する場を形成した（環境・エネルギーなど）。

### 3. 社会受容・標準化委員会

#### 1) 事業方針

委員会の重要課題を社会受容及び標準化の観点で、以下の項目に設定し、活動を進めた。

- ①ナノ材料の社会受容性向上による産業化促進
  - (1) CNT を主にナノカーボンを対象とした活動
  - (2) ナノ材料及びその使用製品を対象とした活動
  - (3) 情報のデータベース化及び会員への情報発信
  - (4) ナノ安全に関連するネットワークの拡大・深化
- ②ナノテクの国際標準化の推進による市場、流通環境の整備
  - (1) ISO/TC229 標準化活動
  - (2) OECD/WPMN 標準化活動

#### 2) 事業実績

- ①ナノ材料の社会受容性向上による産業化促進
  - (1) CNT を主にナノカーボンを対象とした活動
    - ・ CNT 等に関する問合せ、FAQ の仕組みの効果的運用  
冊子「ナノカーボン FAQ」(令和元年 10 月販売開始) を 2025 年版に改訂し、nano tech 展等で販売を継続している。販売数は累計約 1,000 部となり、CNT 等の使用者から好評を得ている。現在、英語版について改訂を進めている。
    - ・ CNT 等ナノ材料の短期ばく露発がん性評価法の国際標準化への支援  
後述の「CNT 等ナノ材料の短期ばく露発がん性評価法の国際標準化」を CNT 分科会として支援しました。産業界として望ましい評価法のあり方を提案等した。
    - ・ EU の CNT 規制の動向への対応  
欧州で検討されている CNT 規制に対して、省庁、NBCI 分科会メンバー企業と連携し、欧州当局への意見の発信を継続している。  
会員企業による Network NanoCarbon の第 10 回ナノカーボン年次総会 2025 (Nano Carbon Annual Conference 2025、ドイツ ヴュルツブルク、令和 7 年 3 月 18・19 日) における CNT 欧州規制対応を含む NBCI 活動紹介をポスター展示実施。  
会員企業による国際会議 NT' 25 (令和 7 年 6 月 15 日～20 日) における CNT 欧州規制対応を含む NBCI 活動紹介をポスター展示実施。
    - ・ フラーレンに係る活動  
フルーレン分科会については、参加企業が減少し実質的に一社となり、活動実績が無いことから解消することを決定した。
  - (2) ナノ材料及びその使用製品を対象とした活動  
ナノ材料安全分科会において、「コントロールバンディングリスク評価手法

「ISO/TS12901-2」を用いて、MWCNT 及びナノ酸化チタンを対象に、労働現場におけるリスク評価の事例検討を行い、疑問点や論点を整理し理解を深めた。今年度は、コントロールバンディングリスク手法（ISO/TS12901-2）の翻訳 JIS 化、及び、産業界にとって必要な情報ではあるが JIS に記載することが困難な部分についてガイドライン作成を推進した。令和 6（2024）年度 12 月にコントロールバンディングリスク評価手法（ISO/TS12901-2）の翻訳 JIS TS Z 8932:2024 が発行された。

(3) 情報のデータベース化及び会員への情報発信

・情報整備

「国際標準化」に関して情報入手を継続した。

BIAC の組織と活動、ナノテク国際標準化情報、海外ナノ規制情報等に関して、ナノナビを 4 回配信し、ナノ安全に関する講演会を 3 回開催した。

(4) ナノ安全に関連するネットワークの拡大・深化

・関係協会（Japan Business Council in Europe）、省庁（経済産業省、厚生労働省、内閣府）等との情報交換・意見交換を系統的に進めた。

②ナノテクの国際標準化の推進による市場、流通環境の整備

(1) ISO/TC229 標準化活動

・CNT 等ナノ材料の短期ばく露発がん性評価法

正式タイトルは「ナノ材料の肺負荷に基づく間欠ばく露プロトコルによる慢性吸入毒性の評価方法」で、ISO/TC229WG3（健康・環境・安全）において標準化を目指している。本評価法の標準化を NBCI として支援することで、PWI（予備段階）から次の STEP である NWIP（提案段階）へ進むことができた。引き続き支援を継続する。

・TC229、ISO/TR13329（ナノマテリアルに関する SDS）の改定について

本件に関して、ナノ材料安全分科会で議論を開始し、国際エキスパートを通じて、NBCI としての意見を提出することで、文書改訂に貢献することができた。

・国内審議委員会及び分科会活動

ISO/TC229 国内審議委員会及び 4 分科会に委員を派遣し、産業界を代表しての意見具申等を通して規格作成に貢献した。

(2) OECD/WPMN 標準化活動

・「OECD/WPMN の概要及び最近の動向（主にナノ材料の性状や安全性評価の進捗状況等の観点）に関して「情報入手とその対応」を継続的に進めている。

#### 4. ビジネス委員会

##### 1) 事業方針

- ①特徴あるオープンイノベーション活動の促進
  - ・NBCI “ならでは” の多様性ある交流の場
  - ・シーズ・ニーズマッチングの促進
  - ・ビジネス基盤となるネットワーキング連携
- ②ナノカーボン実用化の促進と共創の場の提供
  - ・サプライチェーンの繋がり構築
  - ・WG メンバー間のニーズ・シーズマッチング
  - ・安全交流の場

##### 2) 事業実績

###### ①特徴あるオープンイノベーション活動の促進

###### (1) ビジネス委員会

オープンイノベーション活動を通じて、双方向のコミュニケーションを促して、ビジネスのベースとなるパーソナルネットワークの構築、社会課題解決に繋がるシーズ・ニーズマッチングを促進した。委員長以下全5名のメンバーでビジネス委員会を運営している。委員会会合を隔月に開催して、オープンイノベーション活動全般に関する方針決定を行った。

開催実績 7回：令和6年12月2日、令和7年2月3日（臨時）、2月17日、  
3月6日（臨時）、4月7日、6月11日、8月4日

###### (2) オープンイノベーション WG

- ・令和6年度は、「会員企業からの事業紹介」「大学発シーズ紹介」「計測インフォマティクスゼミ」「ベンチャー企業等との連携促進イベント」「素材産業の事業機会探索セミナー」を開催した。
- a) 「大学発シーズ紹介」や「会員による事業紹介」は、多様な会員企業間を繋ぐきっかけとなる活動として定着、連携アウトプットも見える形で生じている。今年度、大学発シーズ紹介5回、事業紹介1回を開催した。  
パネルディスカッションの機会を多く設けて、社会実装価値と課題の理解と連携への興味を高めて、ニーズ・シーズマッチングを促進した。
- b) 「計測インフォマティクスゼミ」は、「大学発シーズ紹介」の講演をきっかけに鷺尾隆教授(当時大阪大学産業科学研究所、現在関西大学ビジネスデータサイエンス学部長)と会員企業が主体的に連携して発足した実践勉強会(ゼミ形式)であり継続した。1期で3回開催することを前提に、今年度は第2期公開ゼミを2回開催した。それぞれ原則対面のみで約30名の参加。2025年中に3回目の開催準備中である。今回のテーマは、①ラマン分光のベースライン補正、②角度分解 XPS からの深さ方向組成分布の推定。

今後も、鷲尾先生にご指導いただきながら、会員企業の実務上の課題を解決し、そのプロセスをゼミ参加者と共有することで技術習得、人材育成に繋げることを目的とする。

c) 「ベンチャー企業等との連携促進イベント」

○宇宙ビジネス関連

<課題>

NBCI 会員の製品を軌道上試験するためのプログラムを現実的に始動するためには、会員各社が抱えている悩み（「市場規模が分からないので社内の説得が難しい」等）を解決する必要がある。

<解決策>

「NBCI 会員」と「政府や JAXA」（いずれも待ちの姿勢）との間に立って、会員の悩みに対応出来る「仲介的存在」が必要。そこで、その「仲介的存在」を会員に紹介するシンポジウムを開催する。

上記課題を解決する目的で、「仲介的存在」である宇宙ビジネスベンチャー企業をお招きして以下のイベントを企画している。

第 1 部：文部科学省の宇宙戦略基金のご担当の方をお招きし、「宇宙戦略基金に関する講演会」を開催し、NBCI 会員様の宇宙ビジネスに対する意識を高めていただく。

第 2 部：宇宙ビジネスベンチャー企業（「エレベーションスペース」「デジタルブラスト」「スペースワン」「インターステラテクノロジズ」の 4 社を想定）をお招きして、宇宙ベンチャーのシンポジウムを開催する。

第 1 部 ⇒ 文部科学省 研究開発局 宇宙開発利用課の担当者に 10 月以降の開催に向けて調整中。

第 2 部 ⇒ ベンチャーキャピタリスト（イノベーション・エンジン）に上記 4 社に対してシンポジウム開催に向けた日程調整依頼中。

○「Start-up Award 準備会」

<目的>

- ・NBCI の枠組みを活かし、非会員である外部 Start-up 企業と NBCI 会員企業及び団体間の継続的かつ実効的なビジネスマッチング機会の創出
- ・NBCI 会員企業（特に幹部会員企業）の新事業創出
- ・Start-up 企業の正会員入会への誘導

<Action plan>

- ・イベント名：NBCI Start-up Award
- ・主催：ナノテクノロジービジネス推進協議会（NBCI）
- ・対象：未上場の Start-up 企業（資本金 3 億円以下、従業員数 300 名未満、設立年数 20 年以下）

- ・対象分野：モノづくりに関わる先端材料、加工プロセス、分析・計測・評価分野、ディープテック等

<スケジュール>

- ・8月～9月：書類選考（応募いただいた Start-up 企業から 15 社選出）
- ・10月27日：ピッチコンテスト、個別商談会
- ・Start-up 企業 15 社によるピッチコンテスト（5分/社）を行い、最終選考 6～10 社を選出
- ・Start-up 企業 15 社と NBCI 会員企業との個別商談会
- ・令和8年1月28日～30日：「NBCI Start-up Award」最終選考会（nano tech 2026 会場内）
- ・最終選考 6～10 社の商品・技術紹介パネル・サンプル展示（NBCI ブース）
- ・最終ピッチ（令和8年1月29日 12:30～13:15）：「シーズ&ニーズセミナー会場」
- ・表彰：大賞と副賞の授与

d) 「素材産業の事業機会探索セミナー」

メガトレンドの変化からくる成長市場のニーズを起点に、素材産業に焦点を当てた事業機会の探索、市場参入のための KSF の理解と満足度を高め、共同研究を視野にユーザーとの個別会合マッチングへ繋げる。

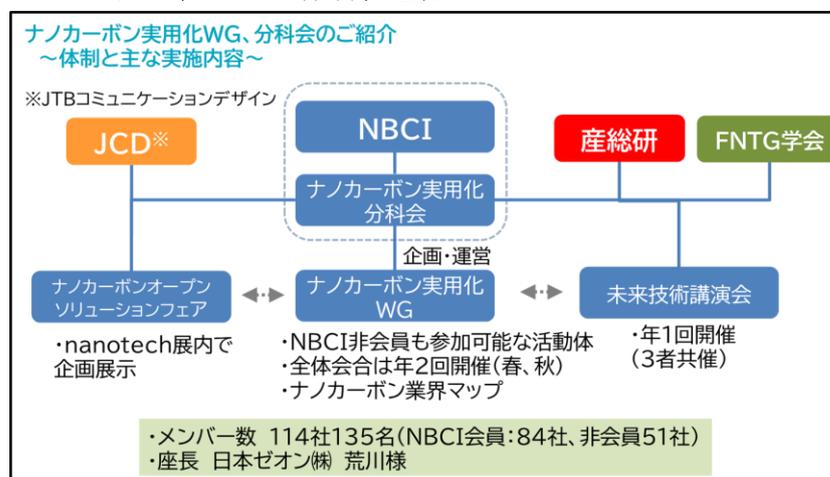
以下の、3回（令和6年度）開催済み。

- ・令和6年10月29日「Deep Tech に関する国内外の動向と Deep Tech Japan の活動紹介」
- ・令和6年12月9日「次世代通信分野の市場動向と熱マネージメント材料・技術」
- ・令和7年3月4日「Deep Tech 今後の展開の方向性、産業としての可能性に関する意見交換会」

②ナノカーボン実用化の促進と共創の場の提供

- ・ナノカーボン実用化分科会においては、ナノカーボン実用化 WG、ナノカーボン業界マップ、ナノカーボンオープンソリューションフェア、ナノカーボン未来技術講演会の企画・運営を行った。

(1) ナノカーボン実用化 WG の体制、運営



分科会メンバーは 29 社 36 名、WG メンバーは 114 社であった。

分科会の活動としては、以下のとおり；

- ・ナノテク展ナノカーボンオープンソリューションの企画・運営  
(JTB コミュニケーションデザインとの共催)
- ・未来技術講演会の企画・開催 (産総研、FNTG 学会との共催)
- ・ナノカーボン実用化 WG 全体会合 (年 2 回 12 と 5 月に開催、特別講演、安全講演、企業交流会等)
- ・ナノカーボン業界マップの作成/更新を主としており、上記の活動状況に合わせて分科会を適宜開催した。

なお、分科会会合と未来技術講演会は対面開催を原則とし、オンラインを併用したハイブリッド開催をした。分科会 WG 全体会合は、対面開催のみで開催した。

#### (2) ナノカーボン業界マップ

- ・2025 年版として更新し、nano tech 2025 でポスター展示するとともに、冊子配布した。その後 NBCI ホームページにて公開した。また海外からのナノテク展来場者向けに英語版も作成した。

#### (3) nano tech 2025 第 6 回ナノカーボンオープンソリューションフェア

- ・ナノカーボンの製造及び使用等に関わる多様な企業の活動を集約して展示するもので、顧客にとってのソリューション提供の場、実用化用途の拡大に向けたビジネスマッチングの場として好評である。令和 6 年度も本フェアを JTB コミュニケーションデザインと NBCI との共催で開催した。
- ・シーズ&ニーズセミナーとして、ペロブスカイト太陽電池、熱電変換素子に関する講演を行い、立ち見の方が出るほど好評であった。
- ・ナノカーボンソリューションフェアには、15 社が出展し、ビジネス交流の場として盛況であった。

#### (4) ナノカーボン未来技術講演会

- ・ナノカーボンが期待される用途分野の動向及びナノカーボンへの期待を主旨とする講演会を企画し、第 4 回講演会を令和 6 年 10 月 17 日に東大弥生講堂一条ホールにてリアル開催した。GX (グリーントランスフォーメーション) をキーワードに「持続可能な未来を実現する低炭素化技術とナノカーボン材料の実用化への取り組み」をテーマに、CO<sub>2</sub> 分離回収について、京都工芸繊維大学の谷口育雄教授、CNT の安全性評価に関する国際標準化と欧州環境規制に関して、産業技術総合研究所の張民芳様と日本ゼオンの上野光保様と阿多誠文様、フラーレン及び CNT を活用した太陽電池、燃料電池の研究開発をしている名古屋大学の松尾豊教授にご登壇をいただき講演会を開催した。参加者は 56 名 (31 社) の方が参加いただき、活発な議論を行った。

#### (5) 分科会全体会合

令和 6 年 12 月 10 日及び令和 7 年 5 月 29 日の 2 回、対面にて開催した。

令和 6 年 12 月開催では、会場に東京 YWCA 会館カフマンホールを用い、特別

講演として産業技術総合研究所の岡崎俊也様、小橋和文様、森本崇宏様に『分散・構造など最新評価技術について』と題してご講演いただいた。また、EV と LIB に関する特別講演会として、Beyond Materials 代表取締役社長 阿部哲士様に、『EV 化または車載 LIB の最新動向、素材産業の市場参入機会について』と題してご講演いただいた。次に、企業交流会として、森六の伊藤貴広様より『CNT 製品のご紹介』を、・礎電線の戸田泰行様より『CNT/Cu 複合線の開発と応用』について、ご紹介いただいた。30 社（61 名）の方に参加いただき、活発な議論がなされた。

令和 7 年 5 月開催では、会場に TOPPAN イベントスペース「FOREST TOKYO」を借用し、特別講演として大林組の淵田安浩様より、『ナノカーボンと宇宙の取組み』と題して、ご講演いただいた。市場動向に関する講演会として、矢野経済研究所の遠藤光司様から『カーボンナノチューブ市場とプレーヤーの動向と今後の展望について』と題して、ご講演いただいた。次に、企業交流会として、キャボット・スペシャルティ・ケミカルズ・インクの田中かほる様より『ナノ粒子が創造する持続可能な未来』を、ユニ・ロット（美粒）の中野満様より『RDC グラフェン+RDC MWCNT RDC とは』を、JTB コミュニケーションデザインの香田純様より『nano tech をはじめとした当社が主催・運営する同時開催 展示会の解析』について、ご紹介いただいた。50 社（79 名）の方に参加いただき、活発な質疑と意見交換がなされた。

## 5. イノベーション推進委員会

### 1) 事業方針

委員会の重要課題を以下の項目に設定し活動を進める。

- ①令和 8（2026）年度開始の「第 7 期科学技術・イノベーション基本計画」に向けた NBCI からの政策提言の策定の中心となる政策提言タスクフォースの運営と、NBCI 政策提言書の府省への提出
- ②内閣府による「第 7 期科学技術・イノベーション基本計画」の策定に関する各府省、関連団体の動向調査と情報収集を目的とする講演会の企画・開催

### 2) 事業実績

- ①令和 8（2026）年度開始の「第 7 期科学技術・イノベーション基本計画」に向けた政策提言の策定活動を実施した。企画運営推進会議、イノベーション推進委員会、NBCI 事務局のメンバーで構成する、政策提言タスクフォースを中心に、NBCI 会員の意見を集約し、NBCI 政策提言書を策定、令和 6 年 11 月 1 日に内閣府に提出（経済産業省、文部科学省に写しを提出）した。

- ②内閣府による「第 7 期科学技術・イノベーション基本計画」の策定に関する各府省、関連団体の動向調査と情報収集を目的とした講演会を企画・開催した。

令和 7 年 6 月 17 日

講師：東京大学 大学院理学系研究科 一杉太郎 教授

題目：データ・ロボット駆動材料科学の世界動向と日本のマテリアル戦略

令和 7 年 9 月 10 日

講師：経済産業省 製造産業局 素材産業課 革新素材室 山田純市 室長

題目：素材産業の国際競争力強化に向けた産業政策

## 6. 政策提言タスクフォース

### 1) 事業方針

内閣府における令和 8（2026）年度から始まる「第 7 期科学技術・イノベーション基本計画」の策定に向けた NBCI からの政策提言を、政策提言タスクフォースが中心となり、NBCI 会員の意見を集約し、府省へ提出する。

### 2) 事業実績

NBCI 政策提言書を策定し、令和 6 年 11 月 1 日に内閣府に提出（経済産業省、文部科学省に写しを提出）するとともに、各府省と意見交換を行った。

<NBCI 政策提言書の章立て>

#### 1. 社会課題解決

- 1-1. 社会課題解決の重要性の認識と研究開発の推進
- 1-2. 社会課題解決のための社会科学的側面を研究する機関の整備

#### 2. ナノマテリアル産業の振興

- 2-1. ナノ材料・ナノ構造が寄与する機能の機序解明の推進
- 2-2. 製造業へのバイオ技術の導入支援
- 2-3. 税制によるスタートアップの初期需要創造

#### 3. ナノマテリアルの社会実装

- 3-1. ナノ材料のリスク管理ルールの整備
- 3-2. ナノ材料の安全性評価体制の整備

#### 4. マテリアル創出

- 4-1. マテリアルズ・インフォマティクス（MI）の推進環境の整備
- 4-2. 自律自動実験システムの開発、導入の推進
- 4-3. AI で効果的に活用できる情報インフラの整備

#### 5. 産学連携

- 5-1. 全国横断的な産学連携窓口の整備

#### 6. 人材育成

- 6-1. 「社会実装を担う人材」の育成
- 6-2. 大学での「標準化」の教育
- 6-3. 企業内での「博士人材」の活用
- 6-4. 学校教育での「尖った人材」の育成

## 7. ネットワーキングタスクフォース

### 1) 国際ナノテクノロジー総合展・技術会議 (nano tech 2025)

(nano tech 実行委員会が主催し、NBCI が後援する世界最大級のナノテク展示会)

実施日：令和 7 年 1 月 29 日～1 月 31 日

場所：東京ビッグサイト

主催：nano tech 実行委員会

後援：一般社団法人ナノテクノロジービジネス推進協議会 (NBCI) 他

今年の会場来場者数は 3 日間で 42,089 名 (昨年 40,034 名) と昨年とほぼ同数であったが、NBCI ブースの来訪者は 438 名 (昨年 295 名) と昨年の約 1.5 倍の方々にご来場くださり、密度の濃い意見交換ができ、その後の新規入会にも繋げることができた。

#### ①NBCI 出展ブース (1 月 29 日～1 月 31 日)

今回も、昨年と同様 NBCI 単独ブース 6 小間で出展した。JTB コミュニケーションデザインと共催するナノカーボンオープンソリューションフェアのすぐそばの配置で、東ホール中央付近のメイン通路に面した非常に良い場所に出展できた。展示内容として、「ナノテクの見える化」(NBCI 会員企業の“ナノテク”活用事例の紹介)、「NBCI 活動紹介」(各委員会・分科会、他)、「企業事例展示」(杉田電線、関東電化工業、三菱鉛筆の 3 社)を実施した。

NBCI ブース来場者との名刺交換 計 438 名 (昨年 295 名) と密度の濃い意見交換ができた。NBCI パンフレットを 500 部、「ナノテクの見える化」冊子 560 部、「ナノカーボン業界マップ」冊子 400 部を全て配布することができ、未来のビジネスを拓くための共創への期待を感じることができた。

#### ②第 6 回ナノカーボンオープンソリューションフェア (1 月 29 日～1 月 31 日)

本フェアは、ナノカーボン実用化分科会の企画により、NBCI と JTB コミュニケーションデザインの共催で開催されました。ナノカーボンの製造・使用に関する展示を集約することで、用途拡大に向けた効率的なビジネスマッチングの場を提供し、ナノカーボンの実用化を加速することを目的に、今回で 6 回目 (連続開催) となり、出展企業は 15 社となった。

また、1 月 30 日にはシーズ&ニーズセミナー A 会場にて、2 件の特別講演を実施しました。今回は、日本ゼオン CNT 研究所 所長 内田秀樹 様に『CNT を使った熱電素子の社会実装に向けた取り組み』と題して、桐蔭横浜大学 医用工学部臨床工学科 特任教授 宮坂 力様に『ペロブスカイト太陽電池モジュールの開発技術と 社会実装の方向』と題して、ご講演いただいた。着席、立ち見合わせて、100～180 名の聴講参加があり、大変盛況であった。

③メインシアター講演

「NBCI の活動紹介」

事務局長 高瀬一郎

「TOPPAN グループの事業ポートフォリオの変革に向けた取り組み」

TOPPAN ホールディングス株式会社 事業開発本部 総合研究所所長 原口崇 様

④ナノビズ・ネットワーキングレセプション

実施：令和7年1月30日（木）17:30～19:30

場所：東京ビッグサイト レセプションホール A+B

来場者数：約 400 名

今年は、自民党ナノテクノロジー推進議員連盟会長/内閣官房長官 林芳正様、内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 審議官 川上大輔様、文部科学省 大臣官房審議官 松浦重和様、経済産業省 製造産業局 審議官 浦田秀行様にご出席をいただき来賓のご挨拶を賜った。

また、自由民主党ナノテクノロジー推進議員連盟の後藤茂之衆議院議員のご出席、乾杯のご挨拶を賜った。国内外におけるナノテックビジネス推進のための貴重な交流の舞台となった。

⑤ナノテック大賞

ナノテック大賞を TOPPAN グループ、アナリティクス賞を日本電子、Gx 賞は東レが受賞された。

2) 第17回国際ナノテック団体会議

日時：令和7年1月30日（木）9：30～11：30

会場：東京ビッグサイト 会議棟 609 号会議室

主催：一般社団法人ナノテクノロジービジネス推進協議会（NBCI）

参加者：主催者側・事務局関係者のほか、海外からは7ヶ国 13 団体から 17 名が参加  
日本、カナダ、オーストラリア、台湾、韓国、タイ、マレーシア

内容：①各国ナノテック団体のプレゼンテーション

13 団体より、代表として 10 名の方々に各国におけるナノテクノロジービジネス推進に関するトピックスやネットワーキング活動について紹介いただいた。

②各代表からの発表終了毎に Q&A セッションを設けたところ、数多くの質問や意見が取り交わされ、お互いの活動状況の理解が深まり、国・地域を超えたナノテックネットワーキングの絆をより一層深める事ができたと感じた。

③本会議の司会進行役については、ナノテクノロジーに関する豊富な知見と経験を有する専門性が必要となること、参加する海外のナノテック団体関係者との面識があることが望ましいことから、前回に続き、曾根純一様（マ

テリアル先端リサーチインフラ事業 (ARIM) プログラムディレクター、東京理科大学 客員教授) に担っていただいた。来年度のご協力についてもご快諾いただいた。

- ④文部科学省マテリアル先端リサーチインフラ (ARIM) 機構長 小出康夫様、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) /ユニバーサル マテリアルズ インキュベーター (UMI) 代表取締役 木場祥介様にもご参加いただいた。

### 3) その他機関・団体との交流

文部科学省マテリアル先端リサーチインフラ (ARIM) の専門委員、nano tech 実行委員会委員として、その運営に必要な対応を行った。

### 4) 後援・協賛活動

#### NBCI 後援

- ・センサ&IoT コンソーシアム 2024  
実施日：令和 6 年 10 月 18 日  
会 場：東京大学・駒場リサーチキャンパス ENEOS ホール  
主 催：センサ&IoT コンソーシアム
  
- ・SAT テクノロジー・ショーケース 2025  
実施日：令和 7 年 1 月 23 日  
会 場：つくば国際会議場  
主 催：一般財団法人茨城県科学技術振興財団 つくばサイエンス・アカデミー
  
- ・第 24 回国際ナノテクノロジー総合展・技術会議 (nano tech 2025)  
実施日：令和 7 年 1 月 29 日～31 日 (東京ビッグサイト)  
令和 6 年 12 月 1 日～令和 7 年 2 月 28 日 (オンライン展示)  
会 場：東京ビッグサイト東 4、5 ホール及びオンライン展示  
主 催：nano tech 実行委員会

#### NBCI 協賛

- ・プラスチック成形加工学会「成形加工シンポジア 24」  
実施日：令和 6 年 11 月 27 日～28 日  
会 場：沖縄コンベンションセンター  
主 催：一般社団法人プラスチック成形加工学会
  
- ・POWTEX2024 (第 25 回国際粉体工業展東京)  
実施日：令和 6 年 11 月 27 日～29 日 (東京ビッグサイト)  
令和 6 年 11 月 11 日～12 月 26 日 (オンライン)  
会 場：東京ビッグサイト及びオンライン展示  
主 催：一般社団法人日本粉体工業技術協会
  
- ・高分子学会 24-2 バイオミメティクス研究会  
実施日：令和 6 年 11 月 28 日  
会 場：名古屋工業大学 4 号館ホール及びオンライン

主 催：公益社団法人高分子学会バイオミメティクス研究会  
ISO/TC266 バイオミメティクス国内審議委員会  
共 催：名古屋工業大学

・マテリアル戦略総合シンポジウム 2025 (MatISS 2025)

実施日：令和 7 年 1 月 31 日

会 場：東京ビッグサイト 会議棟 1 階 レセプションホール A・B  
及びオンライン

共 催：文部科学省 マテリアル先端リサーチインフラ (ARIM)

文部科学省 データ創出・活用型マテリアル研究開発プロジェクト (DxMT)

国立研究開発法人物質・材料研究機構 データ中核拠点事業 (MDPF)

・高分子学会 25-1 バイオミメティクス研究会

実施日：令和 7 年 5 月 30 日

会 場：キャンパスプラザ京都及びオンライン

主 催：公益社団法人高分子学会バイオミメティクス研究会  
ISO/TC266 バイオミメティクス国内審議委員会

・プラスチック成形加工学会「第 36 回年次大会」

実施日：令和 7 年 6 月 18 日～19 日

会 場：タワーホール船堀

主 催：一般社団法人プラスチック成形加工学会

## 8. 会員サービス向上・新規会員勧誘

### 1) 情報発信・個別対話・会員活動支援

NBCI の活動トピックス（各種会合及び講演会等）、ナノ材料の安全・規制動向、及び政府政策関連情報を会員向けにタイムリーに情報発信を行った。

併せて、NBCI 各委員会の活動に関する理解を深め、より活発に活用してもらうこと、会員サービスに対するニーズの把握、更には会員間のコミュニケーションの促進を図ることを目的に、会員各社との個別対話をこれまで以上に積極的に実施した。個別対話では、NBCI のネットワーキング効果を活かしていただくべく、「会員からの事業紹介」を積極的に進めた。

また、「ナノテクの見える化」「ナノカーボン業界マップ」や「ナノカーボン FAQ」といった NBCI の価値あるコンテンツをはじめとするナノテク関連データベースを会員と事務局で協力して更新・拡充、公開した。

### 2) 対外発表・広報活動・新規会員勧誘

ナノテクノロジーの先端技術動向を中心とした講演会の開催、nano tech 2025 展示会の場を利用して、NBCI 活動の価値を発信、広報活動を行った（令和 7 年 1 月 29 日～31 日）。

欧州等におけるナノ規制に対しても、セーフ・イノベーションを促進するために産業界として科学的エビデンスに基づく意見発信を継続した。（会員企業による第 10 回ナノカーボン年次総会 2025 (Nano Carbon Annual Conference 2025、ドイツ ヴェルツブルク、令和 7 年 3 月 18 日～19 日) における CNT 欧州規制対応を含む NBCI 活動紹介のポスター展示実施。会員企業による国際会議 NT' 25（令和 7 年 6 月 15 日～20 日）における CNT 欧州規制対応を含む NBCI 活動紹介をポスター展示実施。）

NBCI の「ナノテクの見える化」活動の紹介や各講師による専門分野の最新動向等の講義により、ナノテクノロジーの社会的貢献に関する理解を引き続き広めていくことを目的に、大阪大学で実施している「大阪大学ナノ高度学際教育研究訓練プログラム」の大学院／社会人向けの土曜特別集中講義への講師派遣を継続実施した（令和 6 年 11 月 4 日、18 日）。

nano tech 2025 の NBCI ブースご来訪企業、ナノカーボン実用化 WG 参加企業、会員からの紹介企業等へ積極的にアプローチして対話し、NBCI 活動の価値と魅力をお伝えして新規入会勧誘を行った（15 社に新規入会いただいた）。

### 3) 会費改定について

主に以下背景・理由により、本年 5 月開催の中間理事会に附議、11 月 18 日開催予定の定期総会において、令和 8 年度（令和 8 年 10 月～）より、会費改定を行う旨を公表し、決議を取る意向。なお、会費改定は、大宗を占める正会員（一般会員）に限定し、現在の 10 万円／年を 15 万円／年に改定する予定。

以下、主な背景・理由。

1. 近年の物価高騰により、総会・理事会、ナノテク展、事務所維持費等の費用増加が顕著となっている。
2. 分科会活動において、従来捻出できていた費用（会場費、事務局員交通費等）が、コロナ禍の会員数減を機に経費緊縮期間が続き現在に至るが、コロナ禍後の活動活発化に伴い、必要経費を増加する必要がある。
3. 欧州 CNT 規制実施に伴い、海外ナノテク団体との関係強化が喫緊の課題であるが、有識者や事務局員の海外出張旅費が予算化できていない。
4. 海外ナノテク団体の来日時必要経費、アンカーイベント開催費用等。
5. 事務所運営に係る、資産保守費用、新規設備投資・リース等が予算化できておらず、不健全な財務環境になっている。

#### 4) ホームページリニューアル

NBCI 設立以降、現在のホームページの更新が行われてこなかったこともあり、現在以下の課題・懸念点が発生している。

- 現在使用中の文字エンコーディングは、現在の国際 Web 標準外となり、ホームページ閲覧不能になるおそれがあるため、変更が必要である。
- HP 管理画面と会員情報管理画面が同一ソフト内で構成されており、個人情報対策に関しては、セキュリティ強化の費用負担増やサイバー攻撃による漏洩リスクが残る。
- コンテンツを後付けで追加してきたので、構成内容の整理を行い、視認性を向上する必要がある。

令和 7 年 5 月にホームページ製作の起用ベンダー選定を行い、同 6 月より製作打合せを開始、新ホームページのリリースは、令和 8 年 2 月頃を予定している。

より見やすく充実したコンテンツを盛り込むことで、会員のみならず非会員の入会にもつながる完成度を目指し鋭意取り進めている。

#### 【新ホームページのコンセプト】

- ・既存ホームページのコンテンツをベースに、新コンテンツや新機能も追加する。
- ・会員には個別 ID 付与をするが、非会員へ魅力情報の見せ方を向上する。
- ・コンテンツ入口や、リンクバナーをシンプル化し視認性を高める。
- ・携帯／タブレット端末対応画面（レスポンシブルデザイン）を導入する。
- ・会員情報は、ホームページと切り離し別管理することで、情報漏洩を解消する。